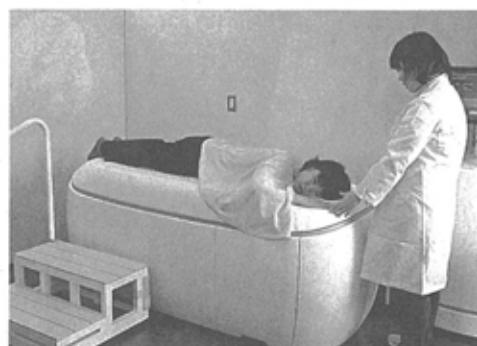


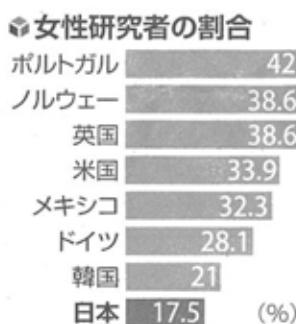
研究開発 「性差」を考慮

| | |
|----------|---|
| 車のシートベルト | 成人男性の体形を念頭に開発 ↓ 女性の安全性の検証が不足し、重傷を負う確率が高い |
| 医薬品 | 動物実験はオスが主(メスは性周期や妊娠の影響を受けやすい)、被験者は男性が多い ↓ 薬の作用が男女で異なる、女性に副作用が出やすい |
| 骨粗しょう症 | 女性がなりやすい疾患と認知され、診断、治療法が開発 ↓ 男性にもあるリスクや患者の把握が遅れる |

(スタンフォード大のサイトより)



上開発した機器を使った乳がん検査の様子（リリーメドテック提供）
女性の意見を聞いて農機が開発された（松山市で、井関農機提供）



女性研究者 17.5%
ジョンの推進には、課題がある。

いち早くジェンダード・イノベーションの必要性を訴えてきた渡辺美代子・科学技術振興機構シニアフェローは、「技術革新を進めるためには、男性を中心経済成長を遂げた時代の価値観を変えることが必要だ。多様な人材が個性を尊重し合って研究開発をすることが、質の向上になり、国際競争力を高めることにつながる」と指摘している。

主に男性が研究開発を担当したため、無意識のうちに性差が見過ごされてきた。車のシートベルトの設計は成人男性の体形を基本とするため、米国の自動車事故データ（1998～2008年）では、女性が重傷を負った確率は男性が同等の事故にあった場合に比べて47%高かった。また、薬の開発では、オスの動物実験や男性被験者のデ

国内外の事例を調査すると立コンサルティングによると「日本の現場でも兆しが出てきている」という。東京大発のベンチャー企業「リリーメドテック」は、痛みを感じずに乳がん検査ができる機器を開発し、昨年4月に発売した。うつぶせになると、ベッドの穴に乳房を入れると、超音波で3D画像を自動撮影する。東志保代表が女性

井関農機は、女性農業従事者を支援する農林水産省のプロジェクトに参加し、女性が操作しやすい農機を開発。「ペダルに足が届きにくい」などの声を受け、トラクターには座席の位置を女性の体格に合わせて調整する機能をつけた。男性やシニアにも好評で、他機種の標準装備になつた機能もある。

産官学 取り組み加速

女性が使いやすい製品やサービスを生み出す「ジェンダード・イノベーション」に産官学が注目している。工業、医療、福祉、農業など幅広い分野で男性の利用を念頭に研究開発をしてきた現状を見直し、性差の分析を取り入れる。日本は取り組みが遅れていたが、大学に初の研究機関が発足し、企業の製品開発の事例も出てきた。政府も必要な政策に位置づけている。

■ 製品・医療…男性視点から転換



一方、遅れていた日本でも、20年に決定した第5次男女共同参画基本計画で、男性の視点で行われてきた研究成果は「女性には必ずしも当てはまらず、社会に悪影響を及ぼす場合もある」と言及。性差を考慮した研究・技術開発の必要性が議論されるようになつてきた。

命に影響も

もう一つには、女性研究者の少なさがある。総務省調査では、日本の研究者に占める女性の割合は20年で17.5%、経済協力開発機構（OECD）加盟国の中では最低レベルだ。

政府は21年の第6期科学技術・イノベーション基本計画で、女性研究者の割合を増やすために数値目標を設定。文部科学省は大学に、女子生徒の理工系学部への進学促進などを求めている。

一つは性差の分析を取り入れると、実験をするにもこれまでより多くの費用と時間がかかる」とだ。

しかし、海外では性差を配慮しない研究は製品の安全性に影響し、経済損失にもつながるという考えが浸透。欧州連合（EU）やカナダでは、政策に関わる研究や助成金の応募に、性差の分析を義務づける動きが進んでいるといい、日本でも政府の後押しを求める声が上がる。

もう一つには、女性研究者の少なさがある。総務省調査では、日本の研究者に占める女性の割合は20年で17.5%、経済協力開発機構（OECD）加盟国の中では最低レベルだ。

政府は21年の第6期科学技術・イノベーション基本計画で、女性研究者の割合を増やすために数値目標を設定。文部科学省は大学に、女子生徒の理工系学部への進学促進などを求めている。